

(5) 「レーク 6 5」の栽培基準例（湖辺平坦）

品質の目標

項 目	目標値
整粒歩合	80%以上
玄米歩合(水分15%)	6.5～7.0%
玄米水分	15%

品質向上のためのポイント

①地力の低いところは、十分な生育を確保できず減収するので、栽培を避ける。

③葉色管理に努め著しい葉色低下を来さないよう注意する。

⑤紋枯病に弱いため発生予察に基づき防除する。

⑦成熟期まで葉色は濃く推移することが多いので収穫適期は籾の色で判断する。

②茎数確保のため、移植時期は5月上旬、栽植密度は60～70株/坪が望ましい。

④幼穂形成期の葉色は濃くても穂肥出穂25日前に施用する(葉色目安:4.5～5.0)

⑥茶米、黒点症状米を軽減するため出穂前後各3週間は常時湛水を行う。

⑧調製は1.9mm以上の網目を使用する。

収量構成の目安(540kg/10a)

収量構成	目 安
穂 数(本／㎡)	400～420
一穂粒数(粒／穂)	72
㎡当粒数(粒／㎡)	28,000～30,000
登熟歩合(%)	85
玄米千粒重(g)	22.0～22.5

茎数

600

400

200

葉色

穂数400本／㎡

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月			
生育期 区 分	育苗期	活着期 田植期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼 穂 形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期
水管理									
栽培管理のポイント	・稲わらの腐熟促進のため、秋耕を行う。 ・土づくり肥料を施用する。 土づくりの徹底 ・乾燥による胴割粒、過乾燥米を防ぐ 仕上水分15% ・収穫適期は籾の色で判断する 籾の黄化率85～90%程度が刈取適期 ・刈取予定日の5日前まで間断かんがい 早期落水はしない ・品種別に適期防除 カメムシ類防除の実施 ・出穂2～3週間前と出穂期の2回 畦畔の2回連続草刈りを徹底 出穂前後各3週間は常時湛水 ・葉色の目安は 〇〇〇で、他品種より濃い 穂肥は出穂25日前に適正量を施用 ・中干しの茎数は目標穂数の8割で実施する 早めの溝切り中干しの徹底 ・活着後は浅水管理とする ・田植後はやや深水として活着を早める ・一株の植付本数は3～4本とする ・栽植密度は〇〇株 ・5月上旬に田植〇〇を行う 適期田植え ・温度管理の徹底で徒長と葉焼けを防止する ・うす播き、均播を励行する ・十分に浸種して芽出しを確実に行う 健苗の育成								